

海外行政視察報告書

視察議員: 森英鷹 冨永計久 伊藤嘉人 平畑雅博

津田信太郎 稲員稔夫 淀川幸二郎

視察期間: 令和2年1月28日(火)～令和2年2月2日(日)

視察先都市名: メルボルン市、オークランド市

森英鷹 富永計久 伊藤嘉人 平畑雅博
津田信太郎 稲員稔夫 淀川幸二郎
メルボルン、オークランド視察

日次 DAYS	月日 DATE	都市名 CITY NAME	時間 LOCAL TIME	旅程 ITINERARY
1	2020/ 1/28 (火)	福岡 成田	Q F 5 0 4 8 1 5 : 1 0 1 6 : 5 5 Q F 0 8 0 1 9 : 2 0	福岡空港～成田空港～メルボルン 機中泊
2	1/29 (水)	メルボルン	7 : 5 5 専用車	到着 午後より メルボルン視察 ・Eureka Skydeck88 ・Melbourne Sports & Aquatic Centre(スポーツ総合施設)視察 メルボルン泊
3	1/30 (木)	メルボルン オークランド	専用車 Q F 1 5 5 1 6 : 5 0 2 2 : 2 5	メルボルン市内視察 ・Melbourne Language Center(語学学校、専門学校)視察 ・Study Melbourne(留学生支援施設)視察 ・クィーンビクトリアマーケット(市場)視察 ・Melbourne Tram(メルボルトラム)視察 ・視察後、空港へ 空路オークランドへ オークランド泊
4	1/31 (金)	オークランド	専用車	オークランド市内視察 ・オークランド市議会、市長訪問、市庁舎訪問 ・スタートアップ施設視察 ・オークランドヨットハーバー施設視察 ・日本庭園視察 オークランド泊
5	2/1 (土)	オークランド オークランド シドニー シドニー	専用車 Q F 1 4 8 1 9 : 0 0 2 0 : 3 5 Q F 0 2 5 2 1 : 3 5	オークランド市内視察 ・クルーズターミナル視察 視察後、空港へ シドニー経由帰国へ 到着後、乗継 機中泊
6	2/2 (日)	羽田 羽田 福岡	5 : 0 0 J L 3 0 7 8 : 0 0 1 0 : 0 5	羽田空港到着 空路福岡へ 福岡空港到着

メルボルン市

【視察の目的】

南半球で最も高い高層ビルにて観光・そして国内の方々にユーレカスカイデッキを整備しアトラクションやメルボルン市内の展望を提供していることを福岡タワーにも活用できないのか

【視察日時】令和2年1月29日(水)12:30~13:30

【視察項目】 集客施策やアトラクションについて

【視察先名】 Eureka Skydeck88

【相手先情報】 Caitlin Tepper (Sales & Marketing)
Sarah Coy (Education Coordinator)

【視察内容】

297.3メートルの南半球にて最も高いユーレカタワー。建設費は5億ドルでユーレカの意味は「見つけたぞ」でありビクトリア州が金鉱地であったことに由来がある。92階建てとなっており88階にユーレカスカイデッキを民間が1フロアを借り運営をしている。営業時間は午前10時から最終入場午後9時半となっており、毎日営業しており一日約1,000人の入場者、週末は約2,000人から3,000人の入場者があり、夏休みの時期には約4,000人の入場者がある。国内からの来場者が7割、観光客が3割で、入場料金は3歳未満は無料で小・中学生は12ドル・大人25ドルとなっており60歳以上の高齢者には割引料金で19ドルである。

観光客が少ない時期には地元の学校などに校外学習の一環として来てもらうなどしており、収支は黒字である。

様々な国からの観光客を誘致すべく日本ではJTBとの提携もしており、日本の学校の修学旅行先にもなっている。

観光客は1位イギリス・2位中国・3位インド・4位アメリカ・5位に日本となっているが、これは何もせずに観光客が誘致できているのではなく、世界各国の有名な観光名所に負けないよう、様々なプロモーションを各国にしているからである。これからも世界中の観光客にスカイデッキに来場してもらえるようプロモーションを強化していかなければならず課題の一つであるとのこと。

このタワーの特徴は1階・88階・89階をビジネスゾーンとしその他は1500世帯に住居として分譲しており、最上階には高級レストランが入りメルボルン市内を見渡しながらの食事も可能である。

タワーの頂上部では強風時には最高で 30 センチメートル各方向に揺れるがビルの過剰な揺れを防ぐため、90 階・91 階に 30 万リットルの貯水タンクが設置されている。階段数は 3,680 段でガラス窓の面積は 52,000 平方メートルになる。スカイデッキ (88 階) へは南半球一の高速エレベーターにて 40 秒足らずで到着し、エレベーターを降りた眼前にはメルボルンの素晴らしい 360 度の展望が開ける。

【所見】

私たちが訪問したユーレカスカイデッキには展望を楽しむのみでは来場者を増やすことに限りがあるため、「ジ・エッジ」というビルの 285 メートルの高さから見学者を乗せたガラスキューブが水平に 3 メートルせり出し、「スリル」も体験できる趣向も凝らされており、大変な人気を呼んでいる。また、{SKYDECK PLANK}という VR を使用して 88 階の高さから外へ向かって歩くなどの体感ゲームもあり、南半球一高いビルの特徴を活かしたイベントもあり訪れた人たちに恐怖と笑いを提供していた。

ここで所見を述べるが、福岡市においては福岡タワーがあり、海そして街並みを展望できるという本市では唯一の場所があり、海外からの観光客も訪れてくれている。また、若者たちのデートスポットにもなっているが他のタワーとの差別化が分かりづらく来場者数も多いようには見受けられない。福岡タワー周辺には観光客も泊まるシーホークホテルがあり、ソフトバンクホークスの本拠地として、また有名芸能人のコンサートも開催されている paypay ドームもあり百道浜周辺にはショッピングモールもあるが、これらの場所に来ている方々を福岡タワーへ呼び込むことができれば、更なる来場者増につながるのではないかと感じている。ドーム、マークイズ、マリゾン、福岡タワーを有機的につなげていくには、海沿いの景観のいい遊歩道を再整備し、回遊性を高めればそれぞれの施設が更に生きてくる。現在の福岡市のシンボルとして本市住民のみならず国内外の観光客にもよりタワーに訪れていただき、そして景色だけではなく様々な仕掛けをして楽しんでいただくためにも Eureka Skydeck のような取り組みを参考にすることで福岡タワーのみならず本市の魅力向上につながり東京タワーやスカイツリーとはまた違うタワーへと変身できると感じた。



視察当日も多くの修学旅行生が見学に来ており、人気の観光スポットであると感じた



VR体験は人気が高く、高齢者の方も楽しまれていた



淀川議員もVRを体験した



フェンスはあるが、建物外のテラスで説明を受ける

【視察の目的】

世界大会レベルの試合が開催可能な総合スポーツ施設の概要や運営状況を学ぶため

【視察項目】 利用状況や効率化について

【視察日時】 令和2年1月29日(水) 14:00～15:00

【視察先名】 Melbourne Sports and Aquatic Centre

【相手方情報】 Nick Meghan (Chief Manager)

【視察内容】

メルボルン都心より tram で 20 分以内の好立地にあり、F1 オーストラリア GP が開催されるアルバートパーク内にある4つの体育館と数種類のプールを備えるスポーツ総合施設。

体育館施設は4つのホールに分かれるが、バスケットボール10コート、卓球台42台、スカッシュ10コート、バドミントン12コート、またインドアホッケー、フットサルなどのコートもある。

営業時間は5:30am～10:00pm 年中無休である。平日昼間は一般開放され市内の学校の授業などで利用されることも多い。

午後から夜間は団体、サークル、地域のクラブチームなどがよく利用をしている。

近年はバスケットボール人気が高まり、8面あるコートはほぼ全面利用されている。

体育館の一つには観客3000人を収容するバスケットコートがあり、プロリーグに所属する地元メルボルンユナイテッドの本拠地となっており、シーズン中には多くの試合が行われる。

また年に何度かアメリカの NBA チームがキャンプや練習試合に訪れることもある。

プール施設も世界大会も行える施設規模となっている。

室内50mプールは10レーンあり、観客席も1800人収容可能、プール内の仕切りを外すと全長75mプールにもなる。このプールを使用し以前 International World Championship という大会が開催された。また併設されている飛び込み用プールは床が昇降可動式で水深0.5m～10mまで変更できる。また14種類の高さの飛び込み板が設置され様々な飛び込み競技が行える。

屋外にも50m10レーンのプールがあり、観客席数3000席のスタンドも併設されている。

このプールの床も全面昇降可能でイベントの際はプール全面に床を上げてコンサートやボクシングなどの試合会場として利用されている。

更に上記以外に水泳教室やファミリー用の室内25m5レーンの多目的プールや、室内の人工波が発生するプールは子ども達にも人気がある。

また水温35度に設定された温水プールでは機能障害の回復やリハビリ、水治療法などに使用される。更にスパ、サウナ、スチームルームも併設され、アスリートなどの身体のメンテナンスにも活用。

施設内のジムは会員制で、目的に応じてスタッフが計画を立て指導してくれる。個人トレーニングのための作業療法士チームもいる。

また、サーアルバートカフェ(7am~8pm)もあり軽食も食べられる。Speedo Store ではウェアや水着などの雑貨も販売している。

また保育士常駐の託児所、Lake Side Sports Medicine Centre では理学療法士によるマッサージ、リハビリなどのサービスを受けられる治療院もある。

【質疑、所見】

都心から近く、多くの市民から愛されるアルバート公園内にあり利便性も高く、ハイレベルな施設であるが、老若男女問わず多くの市民がそれぞれの目的のために利用しており、視察中にも見受けられたが、家族での利用も多い。

施設整備はメルボルン市が行い、管理運営はステイトスポーツセンタートラストという会社であり、本市でいうとスポーツ協会のような団体が指定管理業務を受け持っている。

年間運営費は3000万ドル係るが運営収益が2400万ドルで、差額の600万ドルは市が補填をしているとのこと。年間140万人の多くの市民に利用してもらうために入場料を極力抑え、人件費など経費の削減に尽力をしているとのこと。

また、高齢化社会を迎え、高齢者の健康寿命の延伸のため、プールやジムなどを使った健康教室なども多く実施している。

福岡市にもアイランドシティに完成した福岡市総合体育館があるが、施設としてはかなり充実していると思うが、鉄軌道がなく交通アクセスはかなり不便であり、乗用車での来訪が多くなると思うが、特に大規模大会開催時の十分な駐車場の確保や料金設定など課題はあると考える。

また、体育館を本拠地に行っているプロバスケットボールチームとの連携は今後の課題であり、プロのバスケットボールを身近に触れ合えるのは総合体育館であるとのイメージ戦略を展開し、観客動員、選手とのイベントなどには更に力を入れるべきだと考える。

野球、サッカー同様、体育館を利用しNBAなどを参考にし、市民に密着したバスケットボール競技の振興に力を入れるべき。

その結果、PayPay ドームやベスタと同様に市民が試合を観戦するために足を運び愛用されるアリーナに成長していくと考える。



卓球台が42台あり、人気の高さがうかがえる



マネージャーより概要説明



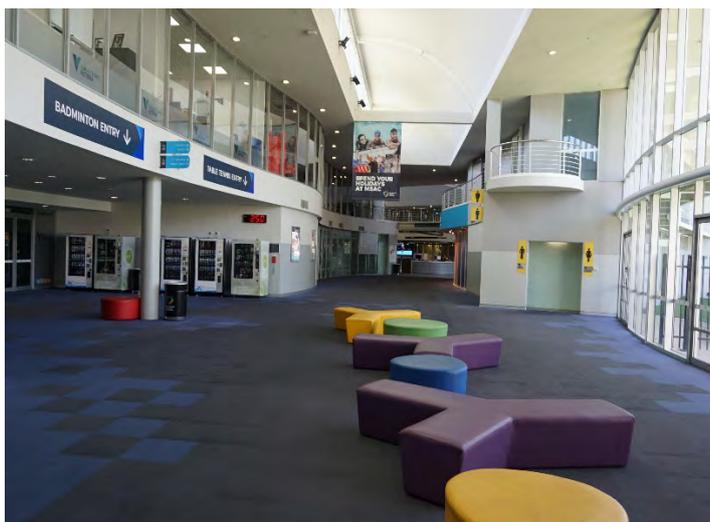
一般利用風景、ファミリー層が多いようだ



バスケットボールコート



プロチームのコート、写真奥にスライド式の観客席がある



ロビーには託児所や治療院があり、フリースペースでは子ども達が遊んでいた



仕切り手前が50mプール、仕切り奥には飛び込み競技用プール
ここで世界大会などが開催される



屋外の50mプール、プール床が上昇し全面フローアとしてイベントなどにも活用される



集合写真

【視察の目的】

外国人留学生を本市に呼び込みまた、その留学生が本市において就労・起業をしてもらえるよう、また外貨を獲得することによる本市への経済波及効果拡大のための取り組み。

【視察項目】ACKNOWLEDGE(メルボルンランゲージセンター)の取り組みについて

【視察日時】 令和2年1月30日(木)9:15~10:00

【視察先名】 ACKNOWLEDGE EDUCATION

【相手方情報】 Miki Tanaka (Marketing Executive)

【視察内容】

メルボルンランゲージセンターは1988年に設立され、一般英語コース・進学準備英語コース・医療専門英語試験対策コース・IELTS試験対策コースがあり、大学などに留学をする前の語学の勉強をするための機能も持っており、中身については1ヶ月のスタディツアーがあり留学と観光を兼ねているものもある。長期留学をするためには留学エージェントを通さなければならないが、こちらの学校の留学生の半数は3ヶ月以内の留学であり、観光ビザにての語学勉強が可能である。

文科省の「飛び立て留学」事業では学生は個人で奨学金の申請ができず学校や役所などの国際交流課を通す必要があるため時間がかかり、また、語学留学目的では認められていないため、個人でこの学校へ申し込みをされてくる。その相談対応をしているのも担当者の田中さんということである。このメルボルンランゲージセンターには日本人は語学力を良い環境で伸ばすのが目的であったり、看護師等手に職があり再就職が比較的しやすい方々が仕事に疲れプチリセットを兼ねて社会人留学してくるケースも多いという。

しかし、他国の留学生は語学力を伸ばす以外にその後の仕事に役立つスキルを目的に留学してくる方々が多いとのことで、{社会福祉士}を目指す人が増えているとのことである。

このような語学学校・専門学校そして大学には世界各地からの留学生が80万人ほど来ているが日本人の数は全体から見ると25位ということである。しかし1ヶ月から1年程度の語学勉強のみの短期留学になると一気に4位まで浮上する現実がある。

また、日本人の学歴観とオーストラリア人の学歴観とでは大きな開きがあり、その違いは日本人はどの高校に行き大学や大学院を出たのかに重きが置かれるが、オーストラリアではどの様な学位を取得しているのか、また専門性がどれだけあるのかに重きが置かれてその後の就職に大きな影響を与えているという。このことから、他国の(英語圏ではない)方で手に専門の職を持ちオーストラリアで人材が不足している。例えば、水道管の修理などができる方などが語学留学してその後オーストラリアで就労し高額な収入を得ている実情もあるとのことである。

通常のインターナショナル大学の学費は年間 350 万円から 400 万円プラス家賃・生活費、メルボルンランゲージセンターでは年間 150 万円プラス家賃・生活費と決して安くはない金額がかかる。

例えば、15 歳以上の学生はホームステイをする場合 1 週間 3 食・個人部屋付きで 320ドルの生活費。

18 歳以上の学生はホームステイをする場合 1 週間 3 食・個人部屋付きで 300ドルの生活費。

18 歳以上になると数人でアパートをシェアして家賃を節約しながら生活する学生が多くいるとのことだが、オーストラリアは国際教育法がしっかりとしているためホームステイ先などは徹底的に調査が入るため安心して留学生を迎える環境が整っている。その理由が特にビクトリア州においては留学生を受け入れるというのは輸出ととらえ外貨獲得のための重要な政策となっているからであり、ビクトリア州の留学による外貨獲得はオーストラリア全体の 30 パーセントに及んでいる。

3ヶ月の短期留学が多いがセンターとしてはこの期間は体験留学と考えており、そこまで英語力が伸びるものではないという。この期間に学生が固定された人たちだけと付き合うのではなく、様々な国の人たちとコミュニケーションをとることでその先の大学進学時や就労時にプラスになり、そのような留学生は社会に出ても活躍をしているようである。

余談ではあるが、同センターの医療従事者コースには以前、九州大学多臓器移植の先生も半年間の語学留学をうけていたそうである。

メルボルンランゲージセンターのミッションは「チャレンジ」エディケーションをクリエイティブにであり、公立の学校と違い様々な取り組みにチャレンジができるのが強みである。そして学歴を上げるのではなく、将来雇用をされる人になる事を大きな目的として運営がなされているのが特徴である。

【所見】

ここで所見を述べるが、福岡市にも語学学校は多々存在するが、その中身は本当に日本語を教えるのみであるため、その後福岡市で起業をするというようなところにはつながっておらず、多くの方は留学という意識ではないように思える。勿論、市内の各大学には海外からの留学生もいるが人数としては多くいるわけではないと感じている。福岡市内には私立・国立大学はあるが市立大学はなく、私は福岡市立大学を作り学費などを安く設定することでアジア圏のみならず、欧米からも留学生を呼び込み、質の高い授業と留学生支援・サポートの提供をしていくことで福岡市にとっても大きな意義があると感じている。その後のスタートアップや人材不足解消、または留学生が自国に帰って様々な状況下で活躍をし、また本市との交流が続けば本市のこれからの若者が現在なかなか海外留学をしない中、これからのグローバル社会において海外留学を進学の選択肢として視野に入れやすくなり、また、本市に本社のある企業との大きなパイプづくりの一助になるのではないかと感じている。

アジアのリーダー都市を目指す本市としては、世界各都市との「懸け橋」となりうる有能な人材を多く呼び込み、グローバル人材として福岡市で育て上げれば、市内学生たちの良い刺激にもなり、相乗効果も期待できる。地理的優位性だけでなく、港で栄え長い歴史を持つ海外との交流、多くの大学をはじめとする高度な教育施設など本市には留学生支援事業を拡充できるポテンシャルを兼ね備えている。ぜひ、メルボルン市の先進的な取り組みを参考にし留学生支援事業を観光事業と並ぶ主要な産業にすべきと考える。



田中さんよりパワーポイントでのプレゼンテーション



校長先生との面談



集合写真



授業風景

【視察の目的】近年、福岡市でも増えている外国人留学生の支援の充実を図るため、先進的なサポート体制をもつ施設について学ぶため

【視察日時】令和2年1月30日（木）10：50～11：30

【視察項目】外国人留学生の支援について

【視察先名】スタディメルボルン
(Study Melbourne)

【相手先情報】Kathryn Lysons (Manager)

【視察内容】

ビクトリア州は、毎年170か国以上から20万人以上の学生が留学に来ている。

スタディメルボルンは、留学生たちのビクトリア州での学びと生活を支援するための施設として設立された。オーストラリアでは、この類の施設は初である。Wi-Fi、コーヒー、紅茶等を無料で提供しており、その他にも、通訳サービスなどもすべて無料で利用できる。行っているサービスとしては、留学生の健康状態、精神状態をケアするケースワークサービスがあり、その内容は、留学生たちの財政上の問題、バイトの問題、住居の問題等の相談に乗るサービスである。また、職場の権利に関する無料の法的アドバイスも行っており、こちらは専門の職員が毎週月曜日、火曜日、水曜日に訪問している。同様に、宿泊施設に関する無料の法的アドバイスも行っており、こちらの専門職員は、毎週火曜日と金曜日に訪問している。その他の相談事に関しては、スタッフに専門知識がない場合、専門機関を紹介して、対応している。留学生との繋がりをつくるために、様々な方向からアプローチをかけられるようになっており、その方法としては、直接話して相談することや、e-mailを送って相談すること、フェイスブックのグループに参加することや、定期的にニュースレターを発行することでつながりをつくらうとしている。サービスの業績としては、通話サービスには、2019年で、2,306件の問い合わせがあった。

イベントも行っており、2019年には381個のイベントを企画し、12,369名の生徒が参加した。行ったイベントの一つに、キャリアクラブがある。二週間に一回、水曜日に行っており、内容としては、就職試験や面接対策などの講習である。具体的に説明すると、面接の準備や、ネットワークの構築、オーストラリアの職場文化の理解、仕事選択のセミナー、履歴書の手伝いなどである。他にも、留学生間の繋がりを構築するためのイベントや、ボランティアを紹介するイベント等を行っている。

【質疑】

Q. 「スタッフは何人？」

A. 「マネージャーが一名、シニアケースワーカーが一名、それに加えてケースワーカーが三名、コーディネーターが一名いる。その他には、パートナーシップを結んでいる企業の人が時折来たり、弁護士が週何度か滞在したりしている。」

Q. 「職員はビクトリア州の職員か？運営費は？」

A. 「運営費は州から出ている。州政府の職員という肩書になる。」

Q. 「対象は学生のみか？」

A. 「基本的には学生であり、企業の出向などでビクトリア州に来る人は対象にならない。しかし、留学生が帯同してきた家族は対象になる。」

Q. 「登録制？」

A. 「どこの学生かなど、簡単な質問をするのみで、ビザなどのデータで登録はしていない。」

Q. 「違うビジネスとのマッチングとは？」

A. 「我々の団体が現在の場所に移転する際、就職・雇用を斡旋するアウトカムライフという企業と共同で活動することになり、新たな活動ができるのではと考えた。」

Q. 「共同活動によって、新しいビジネスが生まれるのか？」

A. 「現時点では場所を共有し、互いの活動を把握しているのみ。」

Q. 「留学生の就職支援とは、具体的にどのようなことか？」

A. 「留学生がより現地にて就職しやすくなるためのスキルアップなどの支援をしている。」

Q. 「運営にあたって問題は？」

A. 「2018年9月に現在の場所に移転してから、ビジネスとして順調に成果を上げている。生徒の数も増加し、すべてのスペースがフル活用されているときもある。これからの目標は、メルボルンの留学生の10%に利用してもらうこと。」

Q. 「現時点ではどのくらいの学生が利用しているのか？」

A. 「ビクトリア州の留学生が22万7,000人存在し、センターに登録している学生は1万6,000人いる。この人数は、ケースワークを受けた人もいれば、電話で相談しただけの人や、イベントに参加する人など、様々な形での利用者。」

Q.「各国籍担当のインターン等はあるのか？」

A.「集中的にサービスを提供している国があり、日本や東南アジアの国々がそれにあたる。それぞれの国にサービスを行うグループの中に、リーダーが存在する。」

Q.「公立大学と私立大学の学生どちらが多いか？」

A.「様々な留学生が存在し、ショートコースを受ける人、語学学校を受けに来た人、大学に来た人等がいる。様々な人が利用している。」

Q.「職場文化を教えると言ったが、独特の文化があるのか？」

A.「上下関係の厳しい国の学生からしたら、対等な関係のオーストラリアは異文化になる。そういった、地域ごとの文化の違いによるギャップを埋めるためにオーストラリアの職場文化を教える。」

Q.「体験で、企業に行くシステム等はないのか？」

A.「就職斡旋業者ではないので、そういったことはしていない。」

【所見】

ビクトリア州におけるスタディメルボルン学生センターは、外国人留学生の学びと生活の支援の施設として貴重な役割を果たしており、施設を利用して様々な国の留学生がコミュニケーションをとることで、はじめて海外に留学する学生にとっては、精神的にもとてもありがたい施設になっている。近年福岡市へと学びに来る外国人留学生数は増加しているが、彼らへの支援体制は固まっていないのが現状である。福岡市でもこのような施設を早急に設立していくべきだと考える。スタディメルボルン学生センターでは具体的なサービスとして、就職やボランティア活動の紹介、留学生同士や留学生と地域の人々とのネットワーク構築などの様々な取り組みを行っている。留学生への支援を一つのテーマに絞って行うことは、民間の団体でもできるが、このような複合的な取り組みを行うには、市が主体となることが不可欠である。また、スタディメルボルン学生センターがオーストラリアの職場文化を教えるように、福岡市も留学生支援を通じて、日本及び福岡県、市の魅力を知ってもらうこともできる。留学生たちが、本来の目的である勉学に集中するだけでなく、彼らが勉学の場として選んだ福岡市の魅力についても知ることができるような施設をつくる必要がある。インバウンド客への交通整備も大事であるが、スタディメルボルン学生センターのような施設も同時に設立していくべきである。また、在学学生や大学などを卒業した留学生には福岡市のスタートアップ事業と繋げるなど、帰国させるだけでなく福岡市で起業させ、海外企業へのネットワークが拡散させることなどへの期待もできる。このような横断的なサポートは行政にしかできないことではないだろうか。



施設の外にて説明



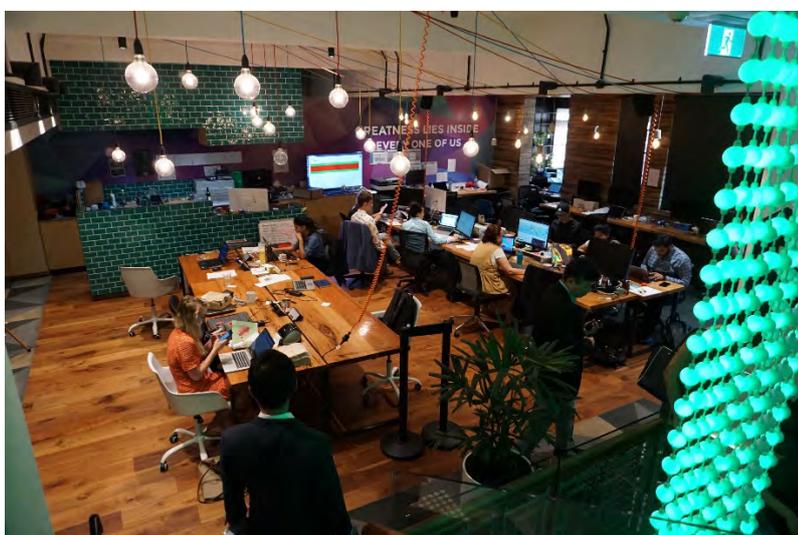
1階受付、事務所



コーディネーターによる説明



説明を受けている隣ではインド系の留学生在がスペースを利用し打ち合わせをしていた



2階ではFree-Wifi環境下でPCを使い、様々な作業ができる



集合写真

【視察の目的】

歴史があって市民に多く使われているマーケットの取り組みを学び、今後本市で必要となってくる場外観光市場の設置に向けて参考とするため。

【項目】市場としての取り組み、集客対策、成り立ちについて。

【視察日時】令和2年1月30日（木曜日）13:00～14:00

【視察先名】クイーンビクトリアマーケット

【相手先情報】Victor Chan (Marketing Coordinator)

Meg Dalla Lana (GM Marketing Customer Experience)

【視察内容】

(1) ビクトリアマーケットは南半球で1番規模が大きく、店舗は650店舗くらいある。店内はとても広いのでツアーガイドも行っている。1878年オープンで130年以上の歴史がある。営業日は、火、木、金、土、日曜日の週5日。野菜や精肉、魚介類、果物などの生鮮食料品に加え、チーズやマリネなど加工食品などのエリア、衣料品やお土産に重宝する雑貨などのエリアに大きく分かれている。フードコートやカフェもある。もともとは卸売りの建物だったが、今は小売りになった。昔はウサギの肉などを売っていた。しかし、1999年にウサギを媒介して発症するウイルスが感染した時はウサギの肉を売のをやめた。

1920年代までに、クイーンビクトリアマーケットの屋台と商人の間で強いスポーツ文化と社会文化が発達した。クイーンビクトリアマーケットチームとして知られている「Market」は水曜日のフットボールリーグに参加し、サッカーシーズン中は毎週水曜日の午後にゲームが開催された。

(2) 店舗のカウンターに使用されている大理石は、食材を新鮮に保つ役割をしている。冷蔵庫がまだ普及していなかった時期は、冷たく保つのに役に立つよう設計された特別な地下管理システムを組み込んだ大理石を使用していた。

(3) 近隣で働いている人も、マーケットに昼食を食べにくる。

ナイトマーケットは4種類あり、「サマーナイトマーケット」、「ウィンターナイトマーケット」、「フォーカーナイトマーケット（アジア圏の屋台のようなもの）」、「ユーロピアンマーケット」がある。ナイトマーケットでは、禁煙だから子どもも安心できる。ナイトマーケットは、そのシーズンが始まる前に、一般募集をして興味のある方が手続きをして参加するかたち。営業日は毎週水曜日。

【質疑】

Q 「マーケットは自治体とどういう関わりがあるのか」

A 「土地や建物の所有者は自治体にありメルボルン市が管理しているが、運営自体はクイーンビクトリアマーケットという会社が運営している。」

Q 「なぜ、これほど人気なのか」

A 「地元の人が言うには、食べ物が新鮮で種類が豊富であり、商品に関してもスペシャリティなものが多くほかのお店では買えないものが多いから。」

Q 「来客数はどのくらいか」

A 「1年間に910万人くらい、ナイトマーケットは90万人くらい」

【所見】地元の人も観光客も一日中楽しめる、巨大なマーケットにとっても魅力を感じた。

食べ物は新鮮な野菜や肉などが売られており、品物はユニークなものが多くさらにほとんどの商品が安いので買い物がより楽しくなると思った。また、おもちゃや衣服、装飾品も売られており、見ているだけで一日が終わるくらいたくさんの種類のものが販売されている。

福岡市にも、クイーンビクトリアマーケットのように新鮮な野菜や肉を販売する大規模な青空市場やほかの店では買えない地元ならではの商品などを販売する市場を観光市場として開催すると地元の人も観光客も楽しめると考えた。また、ナイトマーケットのように、大規模な屋台を開催すれば夜まで楽しむことができる。「福岡市の台所」と呼ばれるようなマーケットを開けば海外からも国内からも観光数が増えるのではないかと考えた。

福岡市が抱える中央卸売市場が3つあるが、鮮魚、青果の取扱数量、取扱金額が共に近年減少している。私たちの食生活、購買行動、ライフスタイルなどの変化など様々な要因はあると思うが、人口160万人だけでなく、年間入込観光客2,000万人の消費を支え、また生産地としても有数な都市であり、食べ物がおいしい街、食を売りに観光に力を入れてやってきた福岡市に「台所」と言えるような場外市場がないのは不思議で仕方ない。

本市にもクイーンビクトリアマーケットのような食の流通拠点としての場外観光市場が必要と考える。

場外観光市場では新鮮で美味しい地元産の農水産物を購入出来るだけでなく、その場で食べられるようにすれば、国内外の観光客や多くの市民が集まれる「食のまち福岡」のシンボルになると確信する。

新たな食の流通拠点の誕生は市場関係者だけでなく、第一産業を支える生産者の所得向上にもつながり、後継者不足などの諸問題の解消に寄与することになるだろう。



マーケット外観



野菜や果実も多くの種類が揃っている



鮮魚、精肉の建物は空調も効いている



各国の食材、加工品が並び、建物の作りはそのままである



屋外マーケットは雑貨、古着などが並ぶ



集合写真

メルボルンのトラムについて

メルボルン初の電気路面電車は 1889 年に開通した。
現在の経営主体はヤラトラム(官民パートナーシップ)、路線数 24+シティサークル
トラムで総延長 250 kmを越え世界最大と言われている。一番長い路線距離 22.8 km
一番短い路線距離 2.9 kmとなっている。

メルボルンでは鉄道、バス、タクシーも通行しているがトラムにおいて市内中心部は無料区間がある。その理由は交通渋滞を減らすことと市民の生活費の軽減、さらに通勤や観光客がメルボルン市内の移動をしやすいするためであり政府が中心部の運賃を予算に組み込んでいるとのこと、また活気あるナイトライフを安全かつ便利に楽しんでもらうため一部路線において週末 24 時間運行されている路線もある。片側 2 車線の道路で 1 車線はトラムというのも珍しくないし、とにかく至る所に 1 両から 5 両編成のトラムが走行しているのが見受けられた。

福岡市においてもいろいろな交通体系が必要となることが考えられる。中心部のウォーターフロントと博多駅を結ぶ交通手段も検討しなければならないが、そこだけで良いわけではない、橋本駅と姪浜駅の間をどうやって結ぶのか？またウォーターフロントの交通拠点駅からアイランドシティやドーム等東西に延伸する交通体系も必要と考える。さらに交通空白地や交通不便地対策も実施しなければならない。これまで福岡市の鉄軌道は地下鉄を中心に進めてきたが、今後幅広く地下鉄・ロープウェイ・モノレール・ライトレール・トラム等コストも含めて検討する必要があると思うが、その中でもトラムは有力な選択肢となる可能性があると考えられる。

40 年前まで福岡市でも西鉄の路面電車があったが、トラムは架線が気になるとの意見等もあるが、現在は地表集電もできるため福岡市での実現可能性を今後しっかり研究・検討をしたいと考えている。



市内の主要な幹線には必ずトラムが走行している



路線によってトラムの外装も違い、利用者にわかりやすくなっている



まだ一部ではあるが、地中電源の区間もあり、景観配慮もなされている

オークランド市

【視察の目的】

福岡市とオークランド市は姉妹都市締結30年を過ぎ、スタートアップをはじめとするビジネスやスポーツ、文化などの交流を更に進める上での意見交換をするため

【視察項目】 姉妹都市としての今後の取り組み

【視察日時】 令和2年1月31日(金)9:30~10:00

【視察先名】 オークランド市議会

国際交流局(International Relations Department)

【相手方情報】 Shane Henderson(City Council of Bordeaux)

Angela Hare(Advisor International Relations)

Kimberly Wu(Manager of International Exchange)

中山 喜弘(在オークランド日本国総領事館 首席領事)

【視察内容】

面談予定であったゴフ市長は、どうしても公務の為、同席はかなわず代理としてオークランド市議会議員のシェーン・ヘンダーソン氏が対応してくれた。

冒頭にシェーン・ヘンダーソン議員よりマオリ語と英語にて以下の通り歓迎の挨拶があった。

「ようこそニュージーランドへ。真夏の時期ですので、スーツ、ネクタイでは暑いのではないでしょう。オークランド市は福岡市との姉妹都市関係を大切に考え、30年以上も互いに交流し、協力し、良い関係を保ってきました。

2018年7月にはゴフ市長がアジアパシフィックシティーサミットで福岡市を訪問し、高島市長と福岡市のみなさんの大変温かい歓迎を受け、心から感謝しております。

高島市長におかれましては、2017年にウェストスプリングスにある日本庭園のリニューアルの際に本市に訪問をされました。

また福岡市で取り組まれています APCC には今まで多くのオークランドの子ども達が参加し、かけがえのない体験をさせて頂いています。

去年のラグビーワールドカップではニュージーランド代表は満足いく結果ではありませんでしたが、日本代表の活躍は素晴らしかったです。また福岡市でも貴重な試合が開催されたと聞いています。

オークランド市では2021年にアメリカズカップ、その後には APEC などの国際イベントが多く開催される予定ですので来年も是非お越しくださいますようお願い致しております。

最後に両市の交流が更に深まりますことを祈念しご挨拶にさせていただきます。」

ヘンダーソン議員の挨拶を受け、森団長より挨拶

「この度は議員の心温まるご挨拶と大変貴重なお時間を賜り、誠に感謝申し上げます。福岡市議会といたしましても30年以上の深い関係はこれからも大切にしていきたいと考えております。私個人も25年前に日本庭園を視察に訪れて以来2回目の訪問になります。以前に比べると街並みも様変わりし、オークランド市の著しい成長を感じる事が出来て大変うれしく思います。

議員として姉妹都市を訪問し様々な施設を視察し、貴重な取り組みを学び市政に活かしている、この両市の関係はありがたく、今後も更に交流を深めていかななくてはならないと考えます。

互いの市の距離は遠いですが、私たちの長い歴史と交流を考えますと、今回の視察でその距離は更に身近に感じました。

また、今回は高島市長より親愛なるゴフ市長宛に親書を預かってまいりましたので、ゴフ市長にお渡し願い、私たち訪問団を快く受け入れてくださったことへの感謝の意をお伝えください。

今回の訪問を機に両市の交流が更に深まりますことを願っております。

ありがとうございました。」

ヘンダーソン議員より

「森団長をはじめ訪問団の皆さまの温かい言葉、高島市長よりの親書にも感謝申し上げます。」
とのお礼。

また同席を賜った在オークランド日本国総領事館の中山首席領事よりもご挨拶と訪問団への歓迎の言葉があった

富永副団長よりオークランド市で開催されている「Japan Day」の質問があり、中山首席領事より、今年は2月9日に開催予定であり、この祭りは2001年より、オークランド市、在オークランド日本国総領事館、オークランド日本人会の共催により毎年開催されているとのこと。

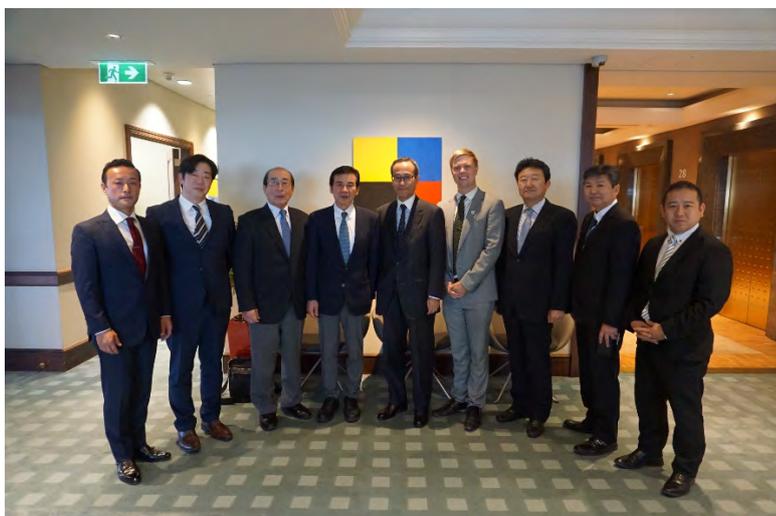
ヘンダーソン議員の奥様は日本語が堪能で、Japan Day にも必ず参加するとのこと、いつか福岡市を必ず訪れたいとのこと。



ヘンダーソン議員より挨拶



森団長とヘンダーソン議員のプレゼント交換



ヘンダーソン議員、中山総領事と集合写真

2020年1月

ニュージーランド・オークランド市長
フィル・ゴフ 様

福岡からご挨拶申し上げます。

この度、福岡市議会の訪問団の貴市訪問の機会を捉え、ゴフ市長にご挨拶できることを嬉しく思います。

今回の訪問団は、貴市滞在中に、両市の姉妹都市交流の促進やスタートアップ施策についての意見交換、南半球最大のマリーナやクルーズターミナルなどの港湾関係施設の視察などを予定しております。

元福岡市議会議長の森 英鷹議員、4年前の姉妹都市30周年記念事業の際に、私と一緒に貴市を訪問した、富永 計久議員をはじめ、団員全員が、これまで以上に幅広い見識を広める素晴らしい機会となることと思います。

今回の訪問に際し、ご尽力を頂いているオークランド市関係者の皆様に、重ねまして心から感謝を申し上げますとともに、あらゆる分野で両市の交流がますます活発になりますようお願いしております。

福岡市長 高島 宗一郎



FUKUOKA CITY

8-1 TENJIN 1-CHOME, CHUO-KU, FUKUOKA CITY 810-8620 JAPAN

January 2020

The Honorable Phil Goff
His Worship the Mayor of Auckland
New Zealand

Dear Mayor Goff,

It is my great pleasure to extend my cordial greetings to you through the Fukuoka City Council delegation.

During their stay in Auckland, the delegation will have meetings on sister city exchanges and startup business policies. They are also planning to visit your port facilities such as the largest marina in the Southern Hemisphere and the cruise terminal.

The delegation members include Mr. MORI Hidetaka, former Chairperson of Fukuoka City Council and Mr. TOMINAGA Kazuhisa, who visited Auckland with me four years ago on the occasion of the 30th anniversary of our sister city relationship. This visit will be another great opportunity for all the delegates to expand their knowledge.

I would like to give my sincere thanks to all the related parties of Auckland for their support in receiving the delegation. I hope that exchanges between both our cities will be further promoted in the various fields.

Sincerely yours,

TAKASHIMA Soichiro
Mayor of Fukuoka City

Telephone: 81-92-711-4023 Fax: 81-92-733-5597

E-mail : kokusaikoryu.GAPB@city.fukuoka.lg.jp URL : www.city.fukuoka.lg.jp

【視察の目的】

先進的なスタートアップ事業展開するオークランド市の施設を視察し、今後も創業に特化した施策に更に取り組みなくてはならない福岡市のスタートアップ事業に活かすため

【視察項目】 スタートアップ施設概要、取り組みなどについて

【視察日時】 令和2年1月31日(金) 10:15～11:45

【視察先名】 Grid Auckland
ATEED(オークランド観光イベント経済発展部)

【相手方情報】 Fiona Haiko(ATTED International Specialist)
Melanie Langlotz(GeoARGames)
中山 喜弘(在オークランド日本国総領事館 首席領事)

【視察内容】

2015年に Grid Aucklandとしてスタートアップ施設を開設。現在180名の会員、57企業が登録をしている。施設の1階のカフェテリアは無料開放されており、誰でも利用可能、年間で起業家など500名が利用し、起業の準備や情報交換などが行われている。

2階は会員専用フロアとなり、ソーシャルエリアとして個人、企業がビジネススペースとして利用をしている。

施設の管理運営をしている ATEED の職員でマネージャー、コミュニティー担当、イベント担当が常駐し(8時～17時)、業種ごとや異業種などの様々なイベントを開催し、会員、企業同士を結び付ける努力をしている。

また、資金繰り、事業計画、経営戦略、法律相談などの起業に必要な情報提供や会計士、弁護士の紹介、不動産などの斡旋もしている。

だが、起業に際しての法人税などの税の優遇処置はしていないとのこと。

元々の建物は1920年に建てられた鉄工所を買い取り、リノベーションしたもので、天井の梁や柱などは昔の建物のままであるが、最新のオフィス機器や用具、オープンなオフィス配置などの空間利用が上手であり、古さを全く感じないスペースとなっている。

自然光が入りやすい設計で全体的に明るいうえに観葉植物などが多く置かれており、利用者が気持ちよく作業ができるようになっている。

また、施設内には無料のコーヒーマシーンや公用キッチンが併設され、簡単な料理が出来て、利用者同士のランチ会などに使われている。

また、施設内にはコミュニケーションボードがあり、SNSなどでの情報交換や交流が盛んに行われている。

利用料金は個人、グループや利用エリア、時間帯などで変わるが、おおよそ月額300\$～800\$の負担となる。

主な利用者は IT 関係者が多いが、ATEED は起業を促し、個々のビジネスを有機的に協力し合わせるにより新しいビジネスを生み出し、ひいてはオークランド市経済発展に直結させることを目的としている。

また、隣接する施設にはスタートアップではなく、インキュベート機能を主とした建物がある。同じく ATEED が管理運営をしているが、既に起業し事業拡大中の2社が入居中であった。起業した会社の次のステップである、事業規模拡大の為に安価な家賃にてオフィススペースを貸出し、隣接する世界規模の流通・IT 企業のアマゾンやマイクロソフト、グーグルなどの企業とのコラボもやっている。

視察後に GeoARGames の Melanie Langlotz さんより自社開発の防災アウトドアゲーム「マジカルパーク」のプレゼンがあった。

彼女は昨年、明星和楽に参加するため福岡市を訪問。

ニュージーランドはホワイト島火山、クライストチャーチ地震など活断層に挟まれ、火山性の地震が多発している。大型化しているストームによる洪水、パワーダウン、森林火災、クライストチャーチのモスク襲撃などのテロ活動も活発である。

近年の様々な災害、事件が多発するオークランド市は市民の防災意識をより高めるため、子ども達が屋外で実際に動きながら体験できる災害対応ゲームを開発した。

子ども達は学校での避難訓練では伝わりきれないことをゲームを通じ学び、災害時に必要なアイテムや避難すべき場所などの緊急時の行動を学習できる。

また、子ども達は一度ゲームをすると様々なことを理解するとのこと。ゲームというジャンルが子ども達には受け入れやすいようだ。

災害担当部署、地震研究所、オークランド市災害対策管理部の3つの機関と協力し作成した。今後、このプログラムを全学校に導入する予定で、この防災知識を子ども達が家庭に帰り親に話をする事により、市民全体に周知させていく考え。

開発者の Melanie さんもスタートアップ起業家である。

最後に ATEED の Fiona Haiko さんより、オークランド市の概要、ATEED の取り組みなどの説明があった。

【質疑、所見】

オークランド市役所より車で10分ほどの元々臨港地の工業エリアであるが、近年では大手IT企業などが立地し、市内有数のIT関連企業が集約されているエリアに、このスタートアップ施設が開設されており、オークランド市の都市計画であるが衰退している物流倉庫業などからの転向方針を感じた。

平成29年に締結されたスタートアップ支援に関する MOU は姉妹都市としてはボルドー市に続く2例目になるが、福岡市もオークランド市もスタートアップ事業を始めたばかりであり、それぞれの事業の拡充を図っている時期であり、情報共有などは盛んに行うべきと考えるが、ビジネスマッチングが出来るまでの成熟はしていないようだ。

説明を聞いて ATEED は年間1400回近くのイベントを行い、5万人近くの参加者を集めており、イベントワークショップを開催し、オフィスから出て交流をすることで生まれる化学反応がビジネスや雇用を生み出し、市経済にプラス要素となるとの考えの元にオークランド市がスタートアップ事業に力を入れていることが理解できた。

また、来年度はアメリカスカップ、APEC などの大規模イベントが控えており、刺激的な1年になりそうだ。

姉妹都市であるオークランド市は人口160万人、ニュージーランド人口の33%、市民の約40%が220か国や地域などの外国生まれという人種のるつぼである。6つの大学があり、高い教育を受けている人が多い。41%の外資系の企業が集結し、GDP は年間38%で GDP 成長率は国の成長率より高い。空港は週525便離発着し、世界の主要都市ともつながっている。今後260億ドルのインフラ等の開発を予定しており、さらに都市の生まれ変わりが進んでいく。福岡市と規模的に似ており、精力的に行っている施策も似ているものが多く感じる。

ATEED のようにスタートアップ、留学などにより国内外より優秀な人材を集め都市の財産としている。この点では、各都市とスタートアップ支援の MOU を数多く締結している福岡市は先見の明があると思うが、これは更に各都市との交流を深め、投資や企業を呼び込み活性化していく必要があると考える。

また、福岡市は今後メルボルン市が取り組んでいる留学生の呼び込み体制拡充が必要不可欠となる。有数の大学を多く抱える福岡市には難しいことではないと思う。アジア圏のみならず欧米の優秀な留学生を集めることにより福岡市の知名度が上がるだけでなく、慢性的な人材不足の解消策になると考える。

Q、「障がい者の起業はあるのか。」

A、「いまのところ実績はないが、施設は障がい者の方が問題なく利用できる設計となっている。」

Q、「起業の成功率はどうか。また起業後に廃業した実例はあるか。」

A、「起業まで行き着くケースは約8割で、様々な理由により断念する方も多い。

過去5年間で廃業したケースは1件で、理由は資金繰りがうまくいかなかったため。」

Q、「外国人は利用できるのか。」

A、「外国人も就労ビザを持っていれば利用可能。ちなみにオークランド市民の約40%は外国生まれ。」

Q、「福岡に行かれたことがあるお二人が思われた福岡市の感想は。」

A、「第一に、とても歓迎をされたことに感動した。

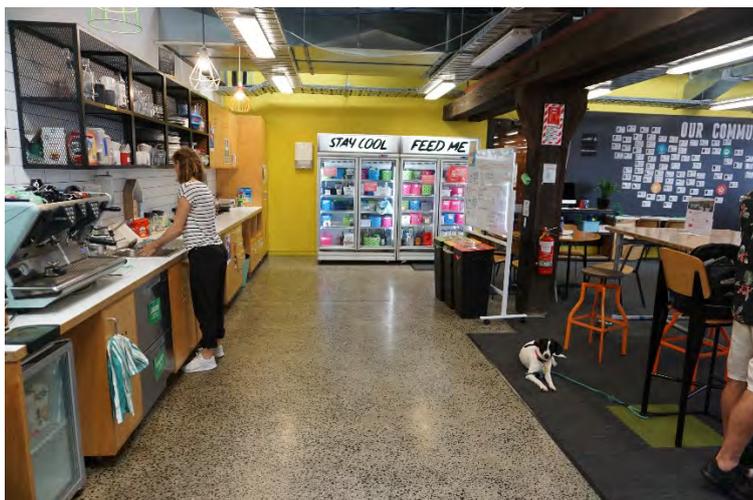
オークランド市と同じ規模の都市で、海があり、スペースもある。とても魅力的で活発な都市というイメージ。オークランド市としても様々なチャレンジと一緒にできる相手であり、投資、貿易などでも福岡の企業と経済交流を望む。」



フィオナさんからの説明 Grid Auckland1階



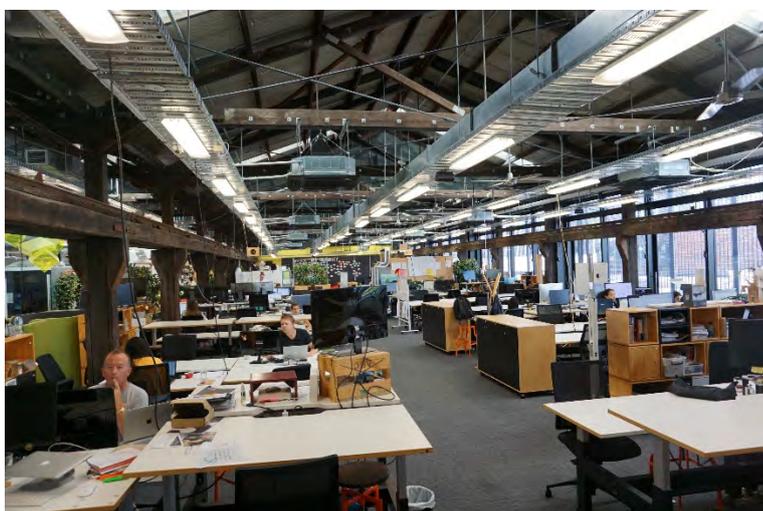
2階の会員専用フロア



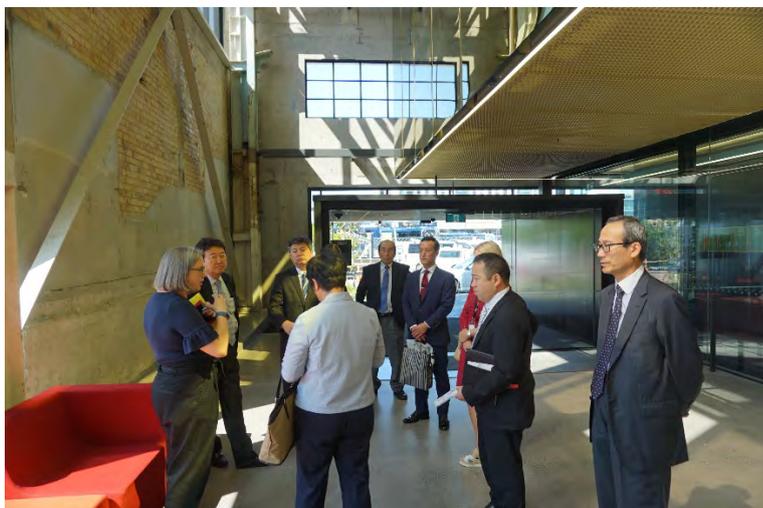
会員専用キッチン、冷蔵庫、右奥のコミュニケーションボードには多くのコメントがある
ペット同伴可能



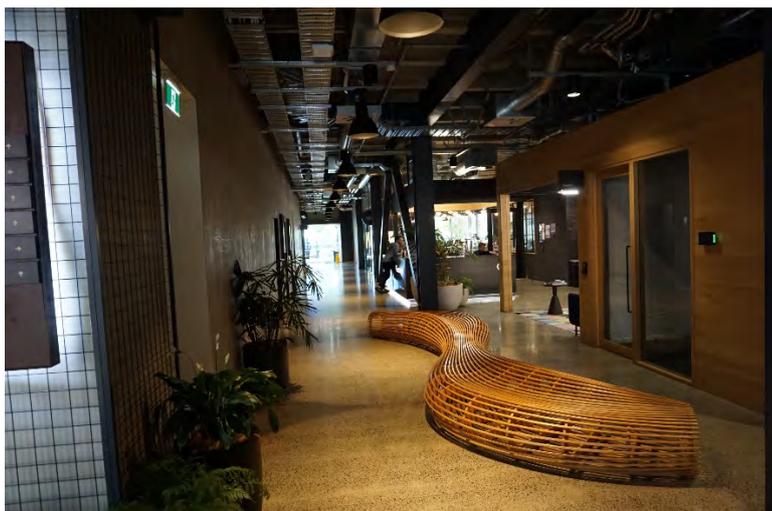
2階の共有スペース、会議机や卓球台もあり、リフレッシュもできる



敷居はなく自由度が高いオフィス設計になっている
柱、梁は昔のままである



インキュベート施設内



別棟のインキュベート施設、1階部分には会員制カフェがあり交流を深める



フィオナさんよりオークランド市のプレゼン風景



集合写真

【視察の目的】

南半球だけでなく世界でも有名なウエストヘブンマリーナの管理運営方法を学び、民営化を控える本市のヨットハーバーの今後に活かすため

【視察項目】 施設概要、運営手法について

【視察日時】 令和2年1月31日(金) 12:15~14:00

【視察先名】 West Heaven Marina
Panuku Development Auckland(オークランド開発公社)

【相手方情報】 Alex Ive(Customer Services)

【視察内容】

「帆の街オークランド」と呼ばれるほど市民のヨット保有率が高く、その市のシンボルといっても過言でないヨットハーバーは3か所あり、まず Silo Marina というヨットハーバーは最大全長115mのヨットなどの船舶を受け入れるバースを備え、オークランド市内で最も新しいウォーターフロント地域に位置する。次に Viaduct Marina は全長60mまでの船舶を停泊可能で、オークランド都心に一番近い埠頭にあり、特にスパーヨット、ファーストクラスクルーザーなどの著名人やセレブなどの世界の富裕層が所有する船舶が停泊するハイクラスハーバーである。

今回、視察するのはウエストヘブンマリーナーで30m級のヨット、クルーザーをはじめ様々な船舶が常時2,000隻以上停泊する南半球最大のヨットハーバーである。

停泊料はそれほど安くはないが、ヨット愛好家が多い市民には愛用されている。

今回の視察では棧橋などのプライベートエリアには入れなかったがヨットハーバーの周囲に設置してある「ウエストヘブンプロムナード」という遊歩道を歩きながら説明を受けた。

このプロムナードは2015年に建築され、現在は全長1.3kmであるが、今後さらに延伸していく計画があるとのこと。

オーストラリア産の硬めの木材を使い、周囲の海、ヨット、自然との調和もとれ海の上を歩いているような作りで、また幅員も十分広く、歩く人、走る人、自転車などの行き来に不自由なく利用できる。遊歩道の至る所にベンチやビーチチェアなどが設置され、多くの人が休憩やランチを楽しんでいた。敷地内にはカフェやレストラン、公衆トイレも6か所あるなど、利便性も高く、市民の憩いの場となっている。

2008年には水質と環境管理において優秀であると世界有数の環境認証であるブルーフラッグ賞を獲得するなど、ヨットハーバーでは排出するゴミ、エンジン等のオイルなどの処理方法など環境負荷に対する罰則をはじめ、細かくルールを決められている。

マリーナの西エリアにおいて「ウエストヘブンマリーナビレッジ」を建設中で、ボートハウス、船具販売店、飲食店などが入居予定で、来年のアメリカズカップに向けて今年冬には完成するらしい。

マリーナ内にはいくつかのヨットクラブがあり、The Royal New Zealand Yacht Squadron は設立が1871年で150年の歴史を持ち、国際セーリング基金などを管理する財団でもあり、若手の指導や数多くの国際大会などを手掛けてきた。また多くのオリンピックメダリストも輩出している。協会創立150周年を迎える来年にはアメリカズカップをホストする中心組織として大会準備に忙殺されているとのこと。

【所見】

19世紀に遡る歴史を持ち、南半球最大のヨットハーバーを視察し、まず規模の大きさに驚いた。市民保有のヨットが多いとのことだが、中にはヨットやクルーザーを住居としている市民も多いらしい。視察中にもすれ違ったが、多くの警備員が配置され安全面の確保もしっかりしていた。福岡市ヨットハーバーとの相違点は規模だけでなく、市民生活により近い存在であること。帆の街とまで称されるので市民にとっての憩いの場であり、セーリングは休暇活動の一つで生活の一部であると感じた。ヨットは私たち日本人にとっての乗用車と同じ移動手段かもしれない。

また福岡市はヨットハーバーを今後民営化する方針であるが、福岡市ヨットハーバーも歴史が長く、博多湾という湾内の潮の流れ、丁度良い風などの自然に恵まれたヨット環境のおかげで若手の教育の場として、オリンピック選手も多く輩出している貴重な施設である。

長年、公共施設としてヨット愛好家だけでなくジュニアや学生ヨットなどの海洋スポーツの拠点として福岡市が運営してきたことを鑑みると、今後の民営化により賑わいのみの施設に変わっていくことだけは危惧することである。民間活力による自由度が増した施設計画において貴重な癒しの海辺空間として多くの市民が集い、ジュニアや学生をはじめとするヨット愛好者が引き続き安心して活動できるハーバーになってほしいと強く要望する。

今回視察したウエストヘブンマリーナも所有権をめぐるいままで様々な物議を醸してきた。元々オークランド港湾会社が所有をしていたが、2003年に物流事業に集中するために民間売却を決定した。オークランド市、セーリング協会、多くの市民などが市のシンボルであるハーバーを外資系企業に売却などしないよう猛反対したが港湾会社は入札を断行。オークランド市も公募に参加するが金額が合わず、政府に介入させ政府に落札させた。その後オークランド市が政府より購入し、市が管理運営を行い現在に至る。

上記のとおり、紆余曲折あったマリーナであるが、今現在はオークランド市のランドマークとして市民に愛され、来年のアメリカズカップ開催に向け、ゴフ市長をはじめ市民全体の機運はかなり高まっている。



アレックス氏よりマリーナの帽子を頂き、港湾施設などの説明を受ける



ウエストヘブンプロムナード



集合写真 海は透明度が高く、水質はとても良い



今年末に完成予定のウエストヘブンビレッジの概要



来年開催されるアメリカズカップ



Alex氏とカップ前で集合写真

【視察目的】福岡市とオークランド市の姉妹都市提携による交流実績の確認

【視察項目】福岡姉妹都市日本庭園

【視察日時】令和2年1月31日(金)15:00～15:30

【所見】

1986年福岡市とニュージーランドオークランド市とで姉妹都市締結後1989年にオークランド市動物園に日本庭園が福岡市の技術提供のもと整備されたが、動物園拡張のため日本庭園は撤去された。

その後、オークランド市民、団体からの日本庭園早期移転を求める要望書が出され動物園の横に平成29年7月17日完成された。整備面積は約800平方メートルで旧庭園の2.6倍となる。庭園様式は「池泉回遊式庭園」であり、主要施設として「庭門」「冠木門」「石灯笼」「滝」「石橋」「建仁寺垣」などがあり、オークランド市民や動物園に訪れた観光客にも無料で開放されている。

姉妹都市提携をしている中このように日本の文化をしっかりと形にして残してくれていることに大きな感動をした。一方、福岡市にはオークランド市またはニュージーランド文化由来のものが形として残され福岡市民の皆様にニュージーランド文化を感じてもらえる場所がないのは姉妹都市として如何なものかと苦言を呈したくなるのは私だけではないと考える。

是非、本市が姉妹都市提携をしている都市やその国の魅力が福岡市民にも目で見えてわかる取り組みをしていただき、また何故その都市と姉妹都市提携をしているのかその理由・メリットについても周知をしていただきたいと考える次第である。



当日も数組の家族連れ客が訪れていた

【視察の目的】

南半球でも高いクルーズ需要に対し、オークランド市が取り組むクルーズ視察について学ぶため

【視察項目】 クルーズターミナルの施設概要について、アウトバンド振興について

【視察日時】 令和2年2月1日(土)10:00～11:00

【視察先名】 Queens Wharf Cruise Terminal

【相手方情報】 Sean Mangaonkar (Chief Manager Port of Auckland)

【視察内容】

元々の建物は貨物倉庫として1857年に建立され2011年のラグビーワールドカップの開催を機に2,300万NZDをかけて増改築されている。

建物は歴史的建築物として保存しなくてはならず、主な床や天井の梁は当時のままである。

クイーンズワーフは全長280mまでの船まで着岸可能でメインのターミナルである。

隣のプリンセスワーフは全長320mの船まで着岸でき、どちらのバースも水深は10m。

昇降可能な乗客用可動式乗り込みゲート(建築費3億円)があり、干満差3mにも自動に対応し、車いすなど障がい者にもやさしいバリアフリーの構造となっている。

年間の寄港数は平均240回、クルーズシーズンとして夏季の6か月間となる。

オークランド港発着便は200回以下で、その他は世界一周クルーズ、南極クルーズの寄港地や補給港となっている。冬季のオフシーズンは天候が悪いため少なく、1週間程度のフィジー、トンガなどへのクルーズが2便就航している。

建物内の導線はシンプルであり、出入国の審査や荷物等のチェックなどは流れるように行われる。クルーズ船入港時は2,000人以上の荷物に溢れるが、船内の客室エリアごとに色分けされ混雑を軽減している。

利用者の9割近くが外国人であるため、よりシンプルでわかりやすい導線作りが課題であるようだ。

ターミナル横の駐車場には日帰り観光バスが同時に9台止められる。複数隻着岸の際には、乗用車、バス、タクシーなどの駐車スペースが足りなくなる。

極力クルーズ客に迷惑をかけない範囲で時間をずらすなどの対応をしている。

また、クルーズ船が着岸していない日や時間帯、冬季などのオフシーズンにはターミナルや駐車場などを貸出し、各種イベントを行っている。主にコンサート、お祭り、移動遊園地など多くの市民に活用をされている。

【所見】

オークランド市街から近く、立地条件も良くクルーズ客にはとても評判がよいターミナルである。

南半球でも近年クルーズ需要の伸びもあり、今後施設整備も含め力を入れていくそうだ。

クルーズ事業が地元地域に経済的貢献をしているのは、オークランド発着便が多いからだと思う。クルーズ事業はどここの港でもオーバーツーリズムや観光バス不足、交通渋滞などの同様な課題があるが、発着港であれば、ピフォークルーズやアフタークルーズなどの観光振興も見込めるし、クルーズ船への飲食などのケータリング、乗務員などの地元雇用拡大による直接的な経済効果が見込めるため、地元市民の理解も得やすいかと考える。

福岡市はクルーズ事業に堅実に取り組んでいるが、やはり寄港地だけでは、その経済効果は限定される。今後は、海のゲートウェイとしての機能を遺憾なく発揮するための施設整備や福岡発着便を増やすアウトバンド振興には更に邁進するべきである。

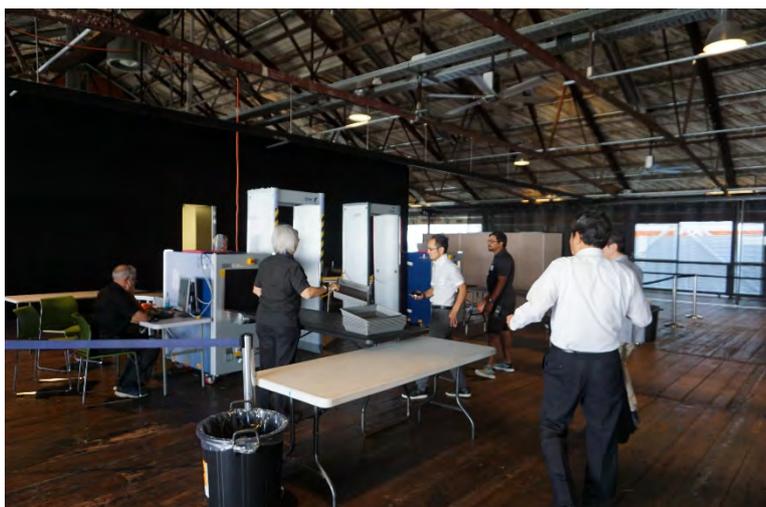
クルーズ船に対してのマイナスイメージの払しょくには、多くの市民に旅行は空港や駅だけでなく、「港からも旅行に行ける！」という市民意識改革をマスコミなどを使い更なる啓蒙をお願いしたい。

また、クルーズ船が着岸していない時期の施設や駐車場のスペースを利用したイベント開催などの取り組みは参考にされたい。

海に開かれた福岡市ではあるが、市民が気軽に行ける水辺空間は限定されているように思える。埠頭エリアは特に行ってはいけないという固定観念があり、海外での埠頭(ピア)地域の活用を参考に海を見ながら飲食することやコンサートなどのイベントができる取り組みを進めてほしい。



Mangaonkar 氏による説明



入国審査の際の手荷物検査場
施設の床は昔の建物のをそのまま使用



自動昇降する乗り込みゲート



Mangaonkar 氏と集合写真

福岡市議会 友好訪問団 FUKUOKA CITY COUNCIL Friendship Delegation

① Leader

森 英鷹
Hidetaka Mori

Fukuoka City Council
Former Chairperson



② Assistant Leader

富永 計久

Kazuhisa Tominaga
Fukuoka City Council
Councilor



③ Group Member

伊藤 嘉人
Yoshito Ito

Fukuoka City Council
Councilor



④ Group Member

平畑 雅博
Masahiro Hirahata

Fukuoka City Council
Councilor



⑤ Group Member

津田 信太郎
Shintaro Tsuda

Fukuoka City Council
Councilor



⑥ Group Member

稲員 稔夫
Toshio Inakazu

Fukuoka City Council
Councilor



⑦ Group Member

淀川 幸二郎
Koujiro Yodogawa

Fukuoka City Council
Councilor

